

東京の少年硬式野球チーム指導者における禁煙に関する チーム公式ホームページ情報の横断調査

星 佳芳¹⁾, 坂本 泰理^{2,3)}, 内田 繕博^{3,4)}
小泉 寛之⁵⁾, 角田 正史¹⁾, 堀口 兵剛¹⁾

A cross-sectional survey of the information on smoking cessation by coaches on the official websites of boys' hardball baseball teams in Tokyo

Hoshi K¹⁾, Sakamoto Y^{2,3)}, Uchida Y^{3,4)}
Koizumi H⁵⁾, Tsunoda M¹⁾, Horiguchi H¹⁾

¹⁾ 北里大学医学部衛生学, ²⁾ 北里大学医学部附属臨床研究センター, ³⁾ 北里大学大学院医療系研究科
⁴⁾ 清泉クリニック整形外科, ⁵⁾ 北里大学医学部脳神経外科

キーワード：禁煙、受動喫煙、野球、スポーツ医学

要 旨

【目的】 少年スポーツの指導者が禁煙を励行することは、スポーツ選手の受動喫煙の害を予防することに繋がる。また、東京都では公共の場の禁煙が条例に盛り込まれる区もあり、試合場内・観客席等での喫煙が禁止される場合や、指導者への注意喚起も進んでいると思われる。一方、指導者に喫煙者がいると「たばこフリー」環境は徹底されず、練習中等の喫煙が少年少女の健康を害する恐れがある。そこで、東京都内の少年野球チームにおいて指導者に禁煙を推奨しているチームがあるか調査した。

【方法】 対象は、日本少年野球連盟（ボーイズリーグ：硬式野球）東京都東支部・西支部の公式ホームページからリンクがはられたチームの公式ホームページ・ブログ等内の情報とした。公式にリンクがはられていた少年野球44チームのトップページにおいて、2014年9月から10月の間にGoogle検索エンジンによるサイト内検索を行い、指導者に対して「禁煙」を推奨する記述があるか確認した。

【結果】 東京都内のボーイズリーグ硬式少年野球チームの公式ホームページ・ブログ等からは、指導者に関する「禁煙」推奨の記述がみられたチームは認められなかった。

【考察】 今後は、調査対象チームを軟式野球チーム、他のスポーツ種目、全国のスポーツチーム等にも拡げ、チーム関係者へのアンケート調査も加え、スポーツ指導者の喫煙行動や選手の健康に関する詳細な検討が必要である。

【著者連絡先】

〒252-0374 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
北里大学医学部衛生学
星 佳芳
TEL：042-778-8111

背景と目的

1986年に報告された米国公衆衛生総監「受動喫煙による健康影響」¹⁾において、(1) 受動喫煙は、健康な非喫煙者に肺がんなどの疾病をもたらす、(2) 喫煙する両親をもった子どもは、喫煙しない両親をもった子どもよりも、呼吸器の感染症を起こす頻度が多く、呼吸器症状を増加させ、呼吸機能の発達が若干阻害される、(3) 同じ空間を喫煙区域と禁煙区域に分けることは、受動喫煙の曝露濃度を多少減少させることができても、受動喫煙をなくすことはできないとした。また、2006年の報告書「受動喫煙による健康影響」²⁾において、“科学的根拠により受動喫煙は呼吸器を傷害することは明らかである”、“受動喫煙に安全なレベル(閾値)は存在しない”と結論づけた。また、職場や家庭での受動喫煙でも心血管疾患が増加することが示され³⁾、我が国においても受動喫煙による死亡への影響が明らかとなっている⁴⁾。但し、子どもにとっては、受動喫煙の機会は家庭内だけに留まらない。学校や地域の活動等にて接する大人からのたばこ煙曝露の影響を受けることが予想される。

例えば、少年スポーツの指導者が禁煙を励行することは、スポーツ選手の受動喫煙の害を予防することに繋がる。

我が国では平成23年(2011年)社会生活基本調査において、10歳から14歳の少年では、野球がサッカーと並びスポーツを行った者の内40%台の行動者率であり、人気の高いスポーツとなっている⁵⁾。そこで、少年野球指導者の喫煙は大きな影響を及ぼすことが予想され、少年野球指導者へ禁煙を推奨する取り組みが進むことは意義深いと考える。

東京都では千代田区にて「安全で快適な千代田区の生活環境の整備に関する条例(2002年)」が制定され路上での喫煙を禁止する区域が設けられたことにより、人々の関心が高まった。路上での喫煙行為はたばこの火による火傷や服の焼け焦げ、火災の誘発、吸殻のポイ捨てを引き起こす可能性をゼロに出来ないだけでなく、喫煙行為が

少年少女の身近な場所で行われることがあれば、受動喫煙による健康障害・被害を抑えることが困難となる。

東京都では、健康増進法(2003年5月施行)や「職場における喫煙対策のためのガイドライン(2003年5月厚生労働省通知)」などに基づく受動喫煙防止の観点により、平成17年(2005年)度から都立学校の敷地内においては全面禁煙が実施されている。また、東京都教育委員会教育目標や東京スポーツビジョン(2002年7月策定)などにに基づき、児童・生徒の「生きる力(1996年7月中央教育審議会答申)」の基盤である「たくましく生きるための健康や体力」をはぐくむ教育が推進されてきた。その一環として、地域スポーツクラブの育成や地域のスポーツ指導者の学校運動部活動への活用についても進められてきた。そのような状況においては、学校外での活動におけるスポーツ指導者の喫煙者率を減らしていくことが、児童・生徒の健康に繋がり、スモークフリー環境の実現には物理的な境界を意識せず拡がっていくことが望ましい。

そこで、この研究では、東京都内の少年硬式野球チームにおいて指導者に禁煙を推奨しているチームがあるか横断的に調査することを目的とした。

研究方法

対象は、日本少年野球連盟(ボーイズリーグ:硬式野球)東京都東支部・西支部の公式ホームページからリンクがはられたチームの公式ホームページ・ブログ等内の情報とした。公式にリンクがはられていた少年野球44チーム(表1)のトップページにおいて、2014年9月から10月の間に

表1 日本少年野球連盟(ボーイズリーグ)東京都東支部・西支部チーム数内訳*

	東京都東支部 (http://boys-tokyoeast.org)	東京都西支部 (http://www.boys-tokyowest.jp)	
小学生の部	3	4	7
中学生の部	20	17	37
計	23	21	44

* 2014年10月現在(公式ホームページ内情報)

Google検索エンジンによるサイト内検索を行い、「禁煙、喫煙、たばこ、タバコ、煙草」のテキストがヒットした場合、指導者に対して「禁煙」を推奨する記述があるか確認した。

結果

公式リンクから辿った結果、東京都内のボーイズリーグ硬式少年野球の44チームの公式ホームページ・ブログ等からは、テキスト検索にて「禁煙、喫煙、たばこ、タバコ、煙草」という語がヒットするチームは無く、指導者に関する「禁煙」推奨の記述がみられたチームは認められなかった。

考察

この研究では、指導者に関する「禁煙」推奨の記述がみられたチームホームページは認められなかったが、東京の硬式少年野球チームについての限定的な調査であり、全ての少年野球チームの状況を反映した結果ではないという限界がある。今後は、調査対象チームを軟式野球チーム、全国のチーム等にも拡げ、チーム関係者へのアンケート調査も加え、少年野球指導者の喫煙行動や選手の健康に関する詳細な検討が必要である。更に、他の青少年スポーツ競技の指導者の状況を把握することも検討したい。

2020年に東京にてオリンピック・パラリンピックが開催されることとなり、スポーツを行い、観戦する場のスモークフリー環境には多くの学会からも関心が寄せられている⁶⁾。また、たばこによる健康障害・被害を防止するための国際条約である「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約（Framework Convention on Tobacco Control：FCTC）に我が国は2004年に批准国となっており受動喫煙防止に積極的に取り組む責務がある。既に国際オリンピック委員会（IOC）は、1988年にオリンピック大会での禁煙方針を採択した。2010年7月には世界保健機関（WHO）とIOCは健康的なライフスタイルとスモークフリーオリンピックを目指す合意文書に調印し⁷⁾、これまでもスモークフリーオリンピックが開催されてきた。

国内でもスポーツと医学に関連した取り組みは確立されつつあり、様々な競技のスポーツ指導者の養成が行われてきた。例えば、公益財団法人日本体育協会・公認スポーツ指導者制度においてスポーツ指導者には医学的・科学的知識が求められている⁸⁾。発育発達期にある青少年の健康を守り、生涯に渡りスポーツを楽しめる人として健康的な成長の支援をする役割を指導者には期待されている。

オリンピックが東京で開催される機会に東京都として禁煙条例が一步踏み込んだものとなり良い効果もたらされ、スポーツを行う青少年にスモークフリー環境が実現することに寄与する可能性があり、今後の行政等の取り組みにも期待したい。

文献

- 1) The Health Consequences of Involuntary Smoking: A report of the Surgeon General. U.S. Department of Health and Humans Services. 1986, p7.
- 2) The Health Consequences of Involuntary Smoking: A report of the Surgeon General. U.S. Department of Health and Humans Services. 2006, p11.
- 3) He J, Vupputuri S, Allen K, Prerost MR, Hughes J, Whelton PK. Passive smoking and the risk of coronary heart disease—a meta-analysis of epidemiologic studies. N Engl J Med. 1999 ; 25 ; 340 (12) : 920-6.
- 4) 片野田耕太, 望月友美子, 雑賀公美子, 祖父江友孝. わが国における受動喫煙起因死亡数の推計 厚生指標 2010年11月号.
- 5) 総務省統計局. 平成23年社会生活基本調査 [internet] <http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/> (accessed 2014.10.31)
- 6) 20学会禁煙推進学術ネットワーク [internet] <http://tobacco-control-research-net.jp/info/> (accessed 2014.10.31)
- 7) WHO News release. WHO and the International Olympic Committee sign agreement to improve healthy lifestyles-Physical activity can reduce the risk of noncommunicable diseases. [internet] http://www.who.int/mediacentre/news/releases/2010/ioc_20100721/en/ (accessed 2014.10.31)
- 8) 公益財団法人日本体育協会・公認スポーツ指導者制度 [internet] <http://www.japan-sports.or.jp/qualification/tabid/58/Default.aspx> (accessed 2014.10.31)

A cross-sectional survey of the information on smoking cessation by coaches on the official websites of boys' hardball baseball teams in Tokyo

Hoshi K¹⁾, Sakamoto Y^{2,3)}, Uchida Y^{3,4)}, Koizumi H⁵⁾, Tsunoda M¹⁾, and Horiguchi H¹⁾

¹⁾ Department of Hygiene, School of Medicine, Kitasato University

²⁾ Kitasato Clinical Research Center

³⁾ Graduate School of Medical Sciences, Kitasato University

⁴⁾ Department of Orthopedic Surgery, SEISEN Clinic

⁵⁾ Department of Neurosurgery, School of Medicine, Kitasato University

Key Words : smoking cessation, passive smoking, baseball, sport medicine

[Objective] Smoking cessation by coaches of boys' sports can prevent harm to athletes caused by passive smoking. In some regulations and wards of Tokyo with ordinances banning smoking in public places, smoking is also banned in athletic fields and spectator stands; thus, it is considered that coaches have been warned against smoking therein. However, if a coach smokes, then a smoke-free environment is not ensured for young athletes, which can put them at a risk for health problems caused by smoking during practice. Therefore, we surveyed whether boys' baseball teams in Tokyo have encouraged their coaches to stop smoking.

[Methods] We conducted information search on the official websites and blogs linked to those pages of the Tokyo East and West Branches of the Japan Boys League (hardball baseball). Between September and October 2014, we searched, using Google, within the websites of 44 boys' baseball teams linked from the official websites of the Boys League for any description encouraging coaches to stop smoking using the terms "no smoking (kin-en)," "smoking (kitsu-en)," and "tobacco" (in Japanese).

[Results] "No smoking," "smoking," and "tobacco" (in Japanese) did not obtain any hits through a text search. There were no descriptions encouraging the coaches to stop smoking on any of the official websites or blogs of affiliated boys' hardball baseball teams in Tokyo.

[Discussion] In the future, we should evaluate sports coaches' smoking behavior and athletes' health in detail by analysing rubber-ball baseball teams, other boys' sports, and nationwide sports teams and conducting questionnaire surveys of the people involved in the teams.

Health Science and Health Care 14 (2) : 62 – 65, 2014